

平成26年度

病害虫発生予察注意報(第3号)

平成26年8月22日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

作物名：ナシ、カキ、キウイフルーツ、温州みかん 等

1 発生地域：県下全域

2 発生量：多

3 発生時期：9月～10月

4 注意報発令の根拠

- 1) カメムシの餌となるヒノキ球果における吸汁痕（口針鞘）数は、平年より多く、カメムシ離脱分散の目安である25（個/球果）を8月上旬に超えている。（図1）
- 2) ビーチング調査によるヒノキ上のチャバネアオカメムシ成虫捕獲数は、8月上旬以降減少し、ヒノキからの離脱分散が始まっている。（図2）
- 3) フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数は、南足柄で平年より多く（図3）、県予察ほ（根府川）でやや多い。
- 4) 予察灯によるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数は、伊勢原、山北、県予察ほ（上吉沢、根府川）で平年より多い（図4）。
- 5) 予察灯によるクサギカメムシ成虫誘殺数は、山北で平年より多く、県予察ほ（上吉沢）でやや多、ツヤアオカメムシは伊勢原、山北で平年より多く、県予察ほ（上吉沢）でやや多い。
- 6) 自然環境保全センターが調査した今春のヒノキ花粉飛散数は、平年よりやや多いため、ヒノキ球果量はやや多く、カメムシ第1世代の発生量がやや多いと考えられる。
- 7) 以上より、ヒノキから離脱分散した成虫が多く果樹園に飛来すると考えられるため、ナシ、カキ、キウイフルーツ、温州みかん等に被害が多くなると予想される。

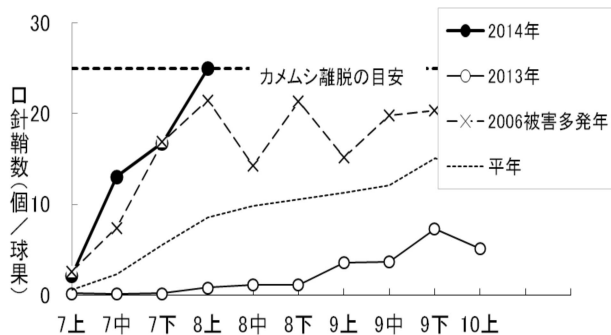


図1 ヒノキ球果上のカメムシ吸汁痕(口針鞘)数

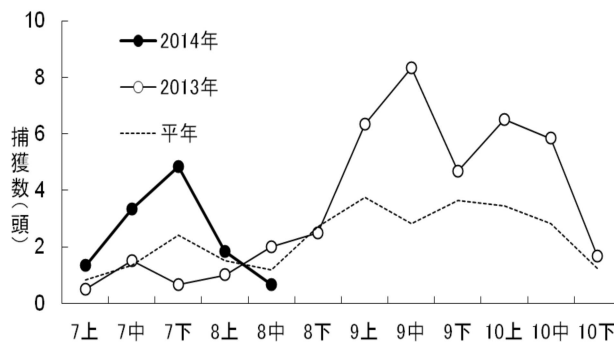
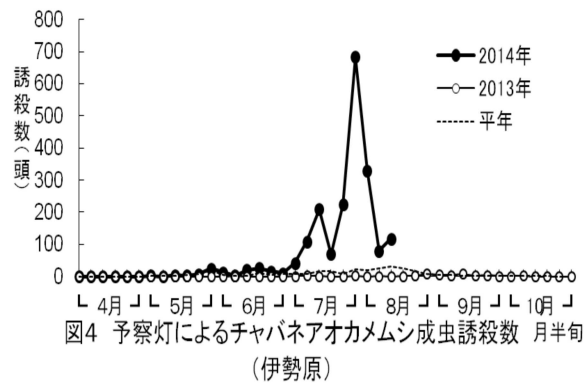
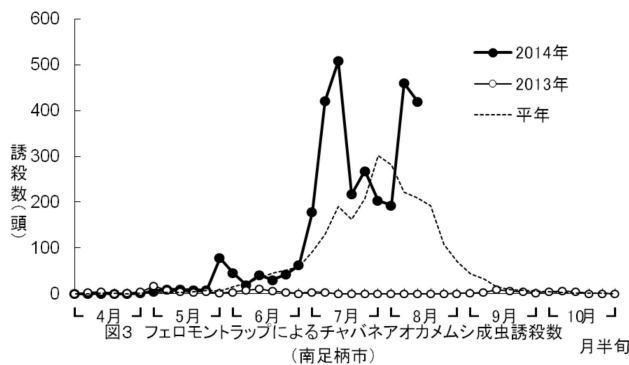


図2 ヒノキ上のチャバネアオカメムシ成虫捕獲数



5 防除対策

- (1) ほ場内外を見回り、発生を認めたら直ちに防除を行う。
 - (2) チャバネアオカメムシには黄色防蛾灯が有効とされている。
 - (3) 防除薬剤を下表に示した。(平成26年度県病害虫雑草防除指導指針等による。)
- なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し使用基準を遵守する。

作物名	薬剤名	系統	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	希釈倍数
ナシ	アクタラ顆粒水溶剤	ネ	前日	3回	2000倍
	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤	ネ	前日	3回	2000倍
	ダントツ水溶剤	ネ	前日	3回	2000～4000倍
	バリアード顆粒水和剤	ネ	前日	3回	2000倍
	アグロスリン水和剤	ピ	前日	3回	1000～2000倍
	スカウトフロアブル	ピ	前日	5回	1500倍
	テルスターフロアブル	ピ	前日	2回	3000～6000倍
	ロディー水和剤	ピ	前日	2回	1000倍
カキ	アクタラ顆粒水溶剤	ネ	3日	3回	2000倍
	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤	ネ	前日	3回	2000倍
	ダントツ水溶剤	ネ	7日	3回	2000～4000倍
	モスピラン顆粒水溶剤	ネ	前日	3回	2000～4000倍
	キラップフロアブル	フ	7日	2回	2000倍
	スミチオン水和剤40	リ	45日	3回	800～1000倍
	アグロスリン水和剤	ピ	前日	3回	1000～2000倍
	テルスターフロアブル	ピ	3日	2回	3000～6000倍
ルキウツツ	アドマイヤーフロアブル	ネ	前日	2回	2000倍
	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤	ネ	前日	3回	1000～2000倍
	アディオオン乳剤	ピ	7日	5回	2000倍
温州みかん	アクタラ顆粒水溶剤	ネ	14日	3回	2000倍
	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤	ネ	前日	3回	2000倍
	ダントツ水溶剤	ネ	前日	3回	2000～4000倍
	スミチオン乳剤	リ	14日	5回	1000倍
	テルスター水和剤	ピ	前日	3回	1000～2000倍
	ロディー乳剤	ピ	7日	4回	2000倍

注)「系統」欄の記号は次を意味する。ネ:ネオニコチノイド系,
フ:フェニルピラゾール系,リ:有機リン系,ピ:合成ピレスロイド系,

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>